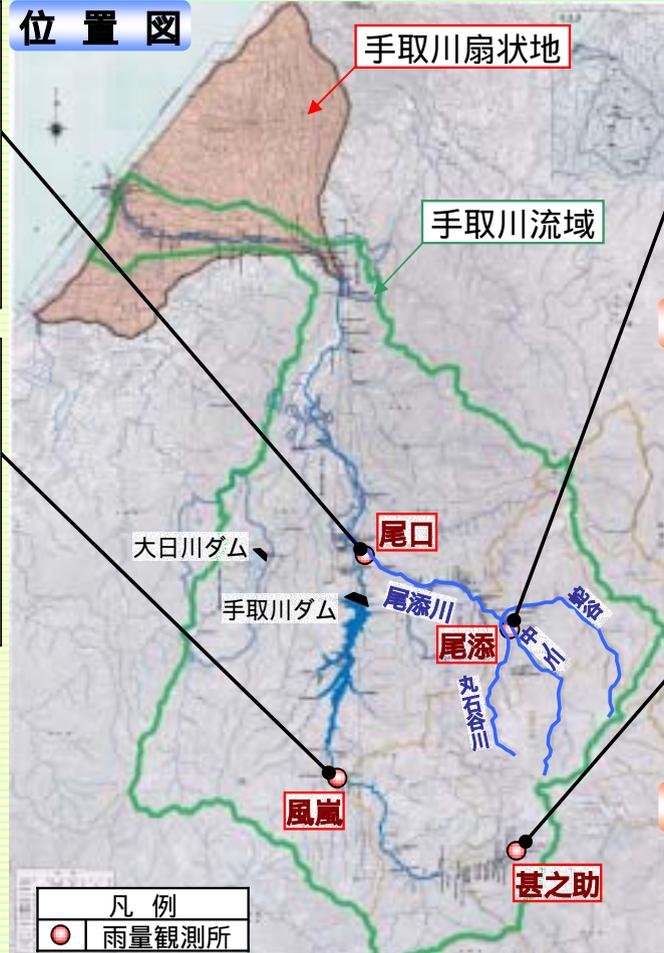
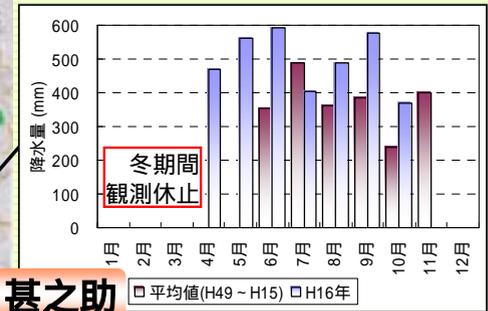
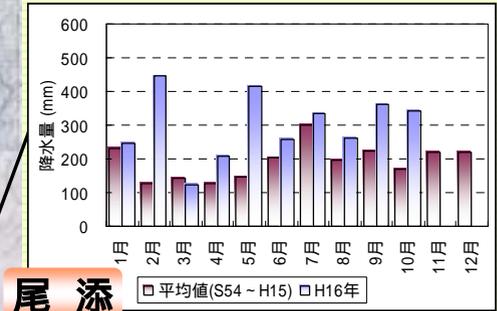
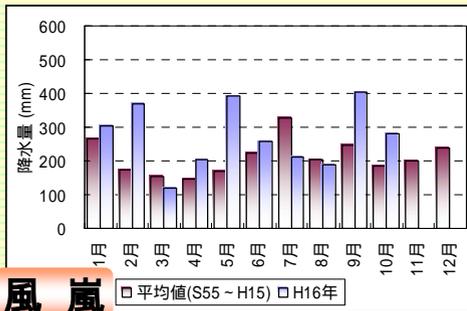
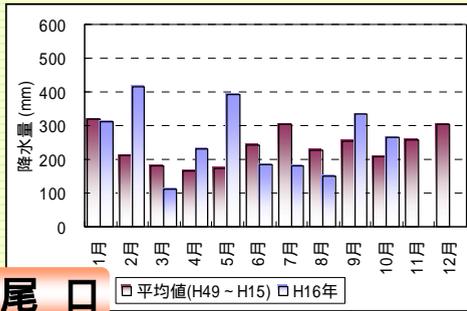


# H16年 手取川の濁水の現状

# 手取川流域の降水量比較 (H16年と平均値)

- H16年は、日本に台風が10個上陸するなど、全国的に非常に出水の多い年でした。
- 手取川流域も、過去に比べ降雨が非常に多い年でした。



H16年データは1～10月のデータ

平均値データは

尾口：S49～H15年(30年)平均

尾添：S54～H15年(25年)平均

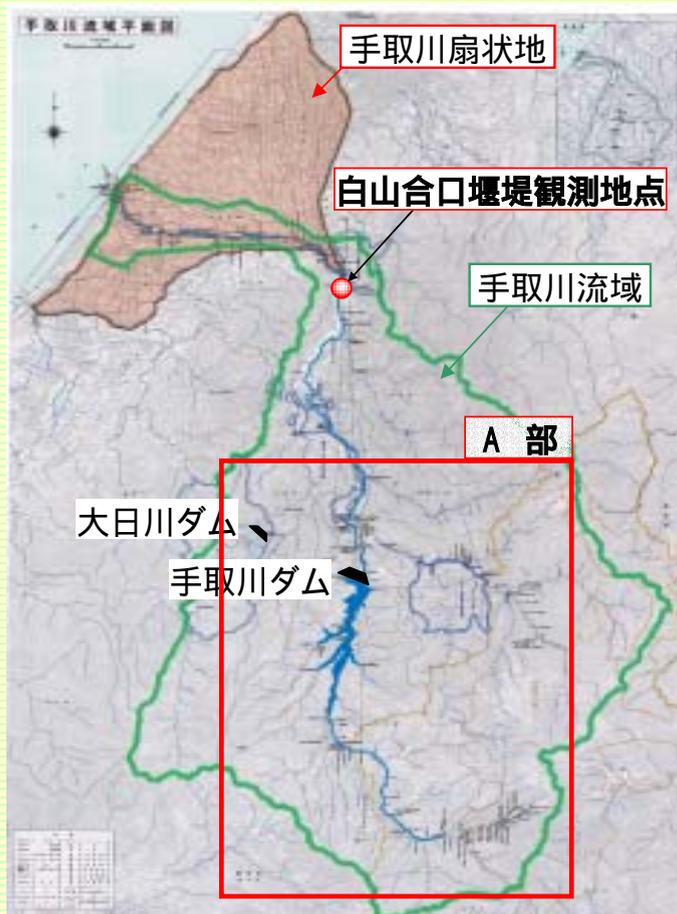
風嵐：S55～H15年(24年)平均

甚之助：S49～H15年(30年)平均

(ともに国土交通省)

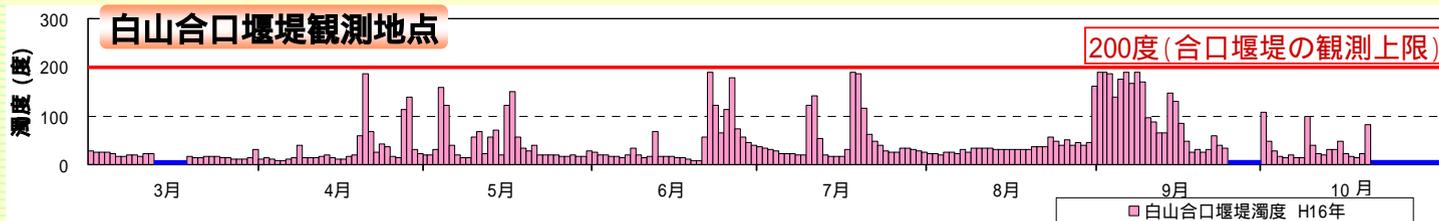
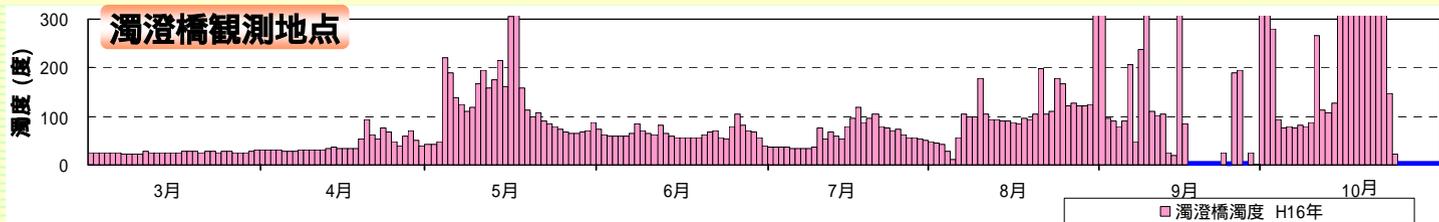
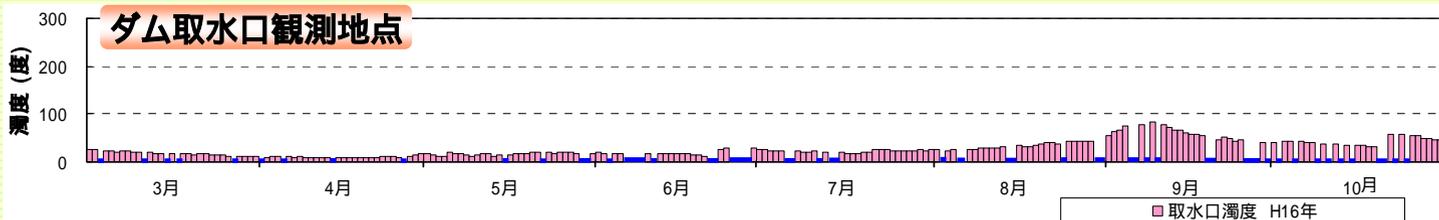
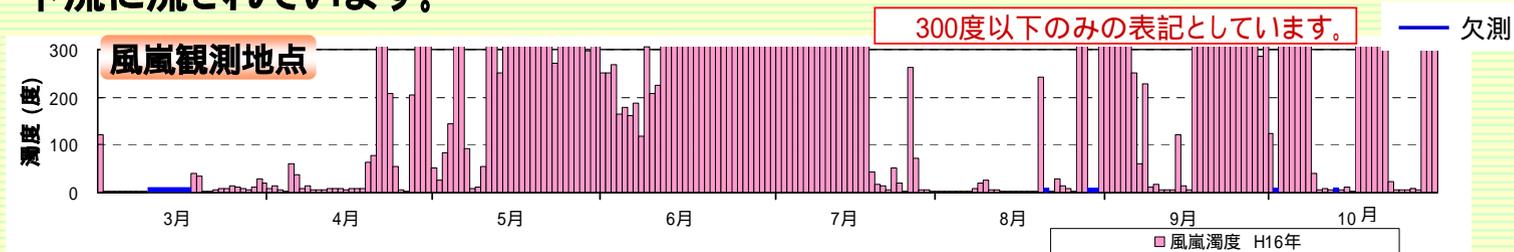
# 濁度観測地点位置図

A部拡大図



# H16年 濁度観測結果の比較(日平均濁度)

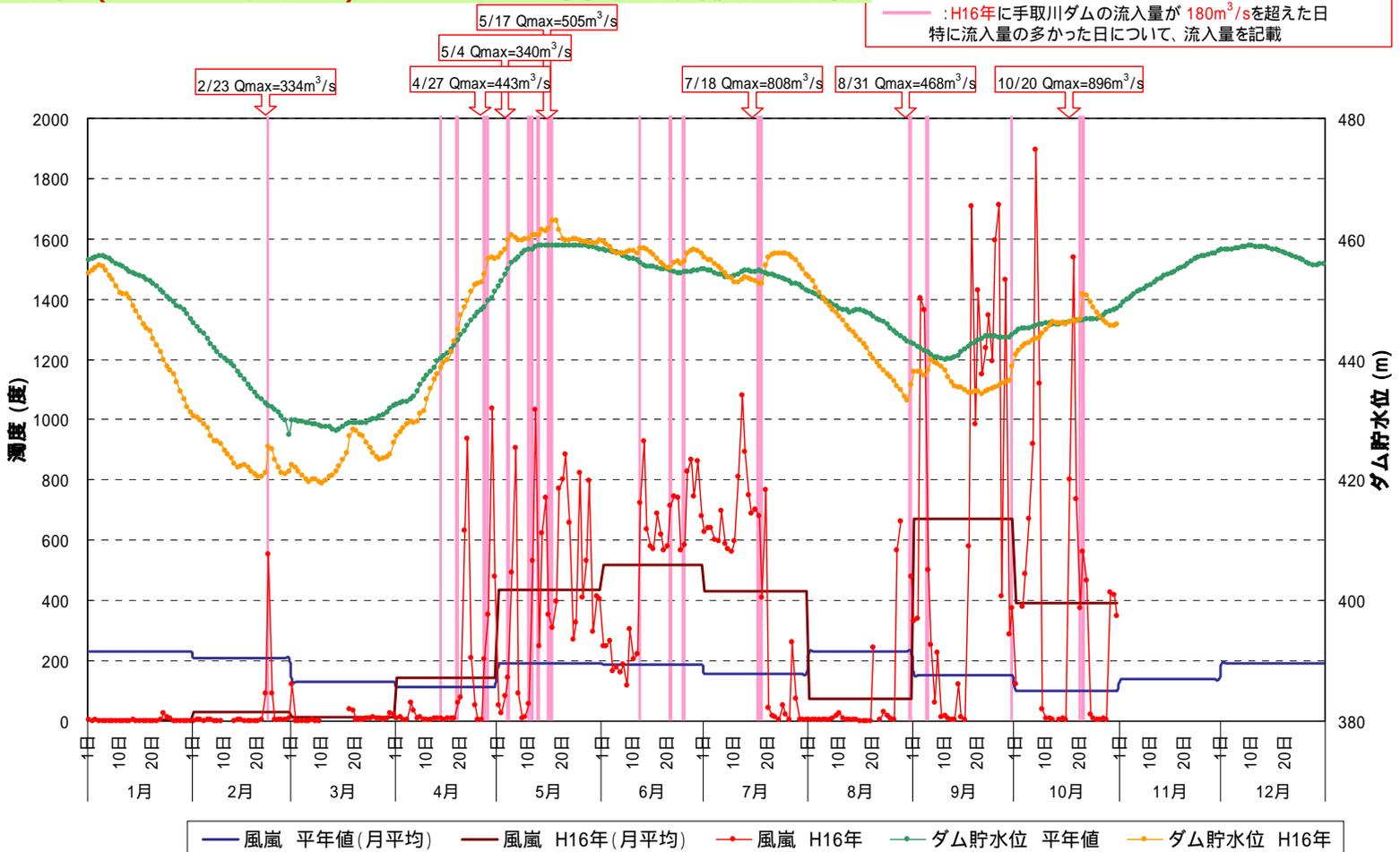
- 尾添川流域から高濃度の濁水が多く流出しています。
- 手取川ダム上流でも頻繁に高濃度の濁水が発生していますが、ダムにより希釈され、下流に流されています。



# 風嵐地点の濁度 (グラフ上限:2000度)

- H16年の風嵐地点の濁度は、5～7月、9～10月に年平均値を大きく上回る濁度を観測しています。

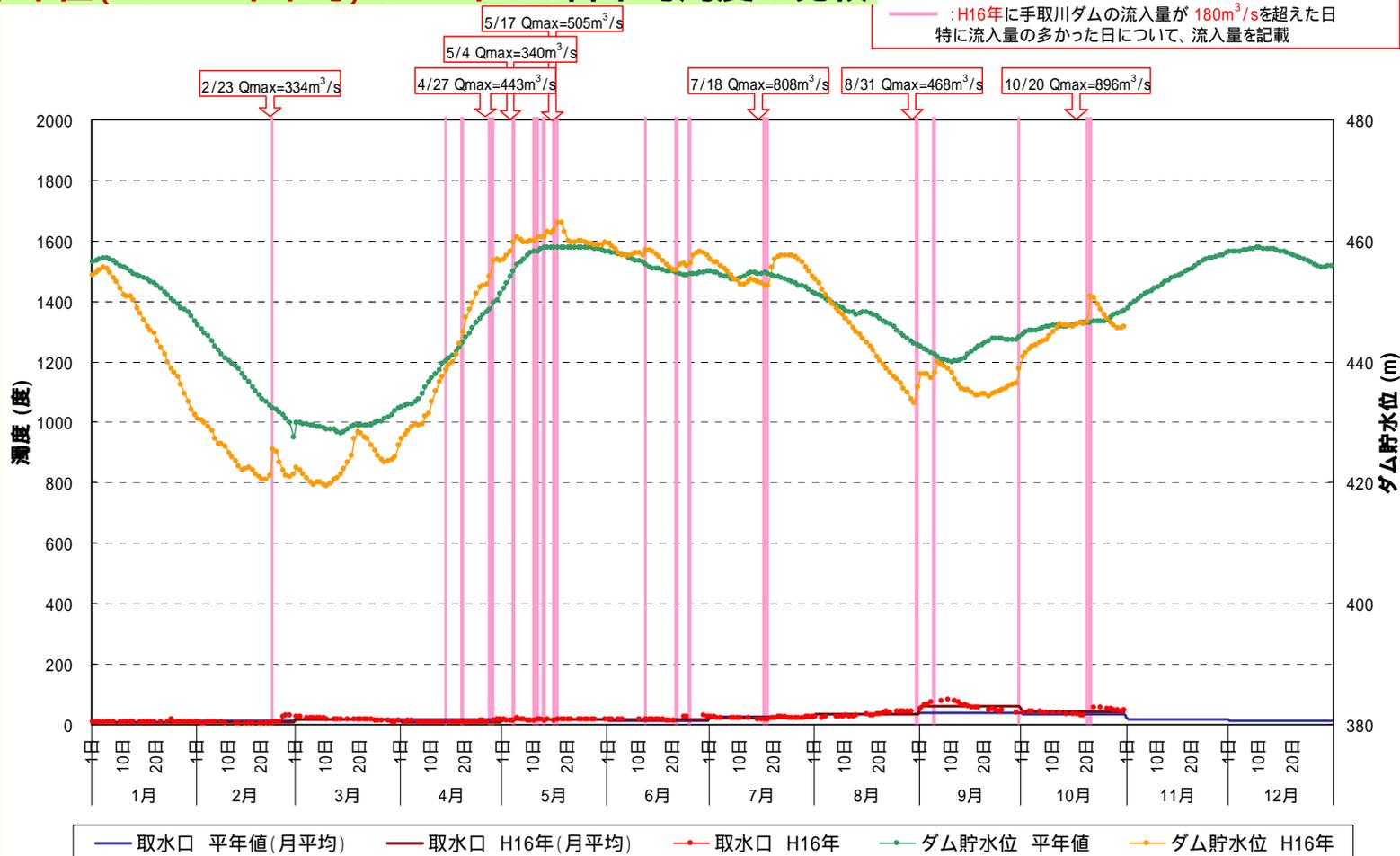
## 平年値 (H2～15年平均) とH16年との日平均濁度の比較



# 手取川ダム取水口地点の濁度 (グラフ上限:2000度)

- 風嵐地点の濁度に比べ、手取川ダム取水口の濁度は大きく低減されています。

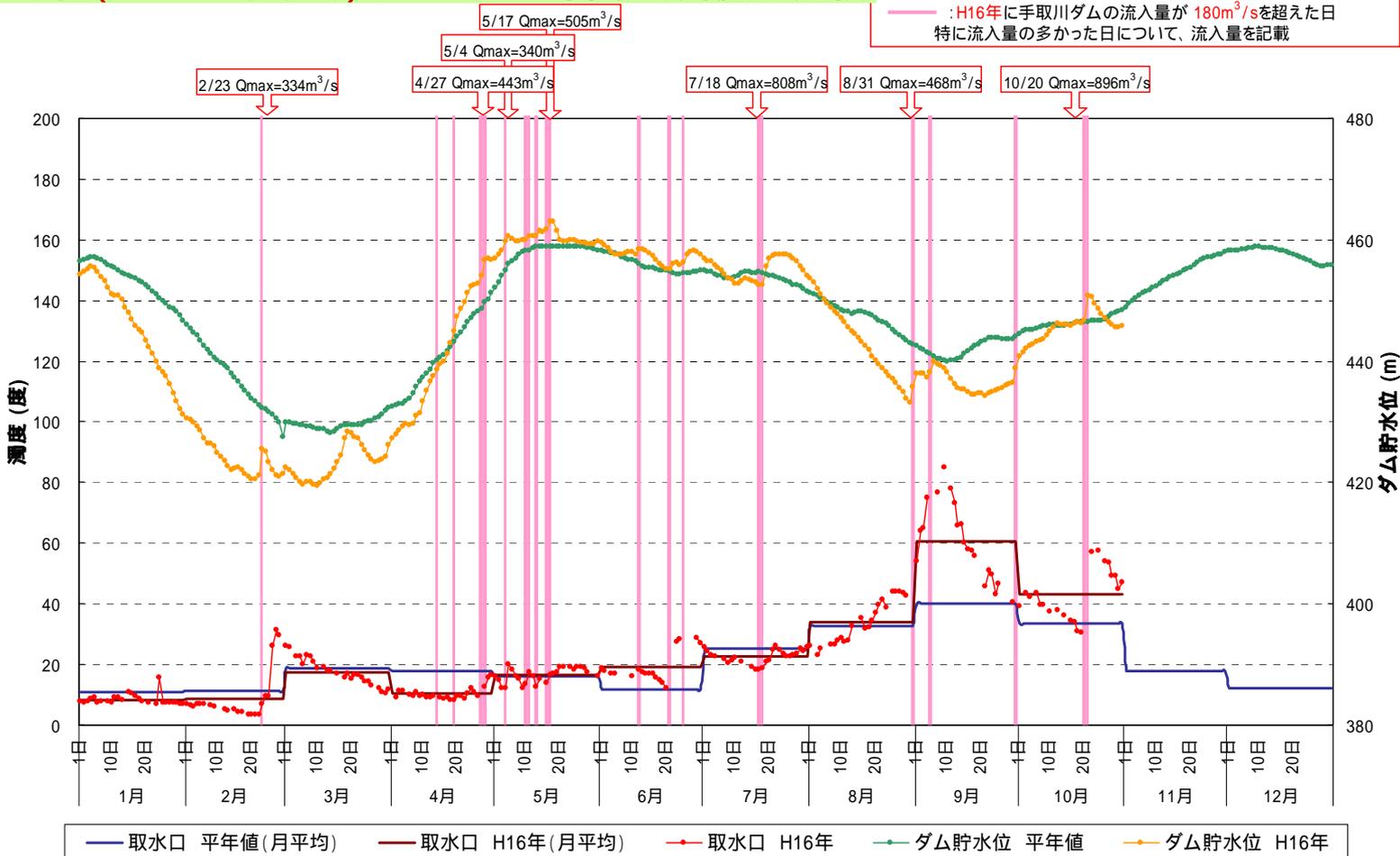
## 平年値 (H2 ~ 15年平均) とH16年との日平均濁度の比較



# 手取川ダム取水口地点の濁度 (グラフ上限:200度)

- 風嵐地点の濁度に比べ、手取川ダム取水口の濁度は大きく低減されています。

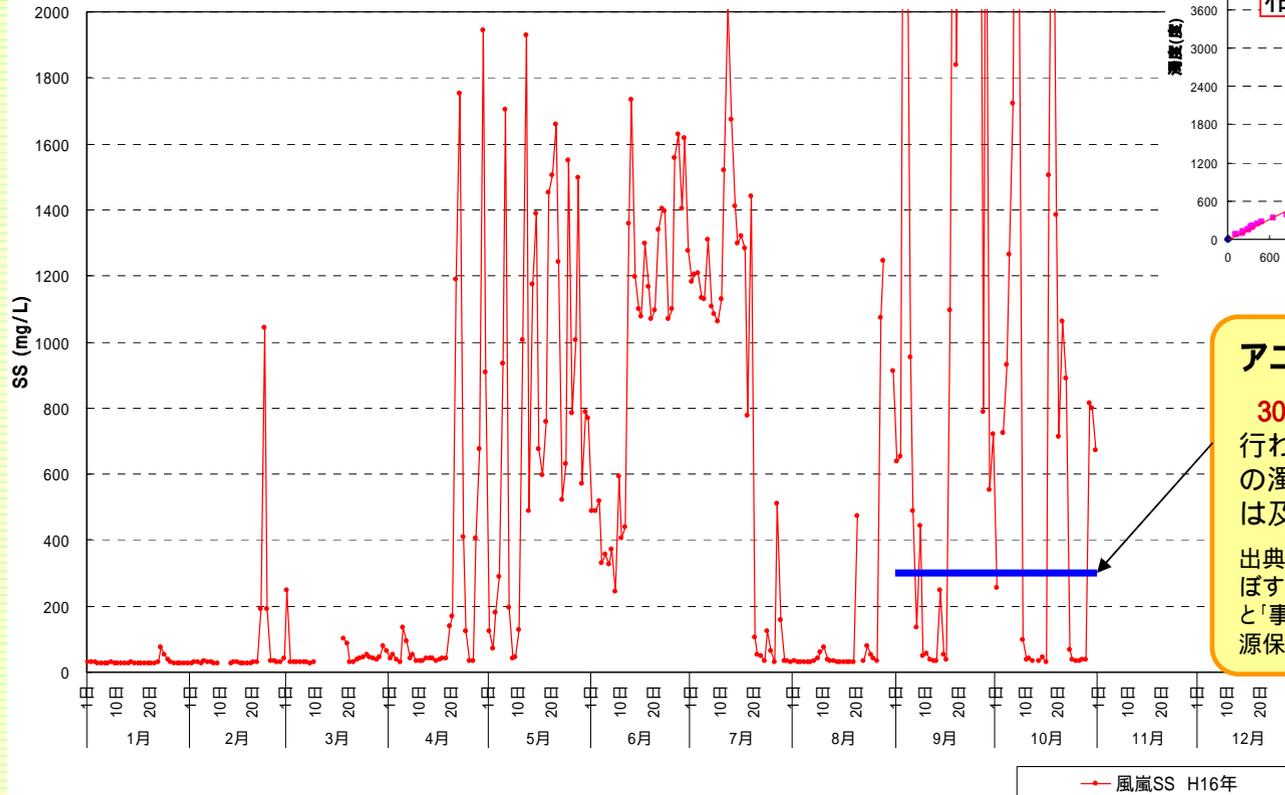
## 平年値 (H2 ~ 15年平均) とH16年との日平均濁度の比較



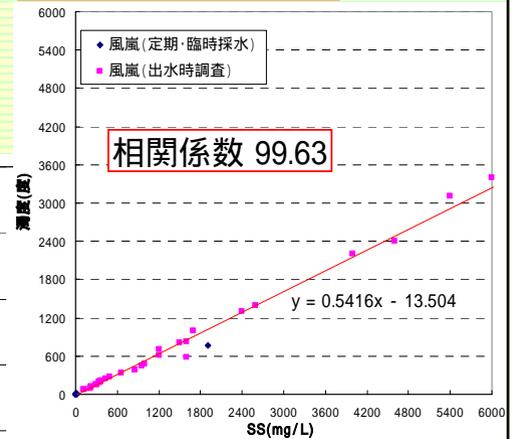
# 風嵐地点の浮遊懸濁物質(SS)

- 9月から10月のアユの産卵期に、風嵐地点ではアユの受精・付着に影響を及ぼすと考えられるSSの基準値を大きく上回っています。

## H16年の日平均SS(濁度値より相関式換算) (参考値)



## 濁度とSSの相関グラフ



## アユの卵の受精・付着

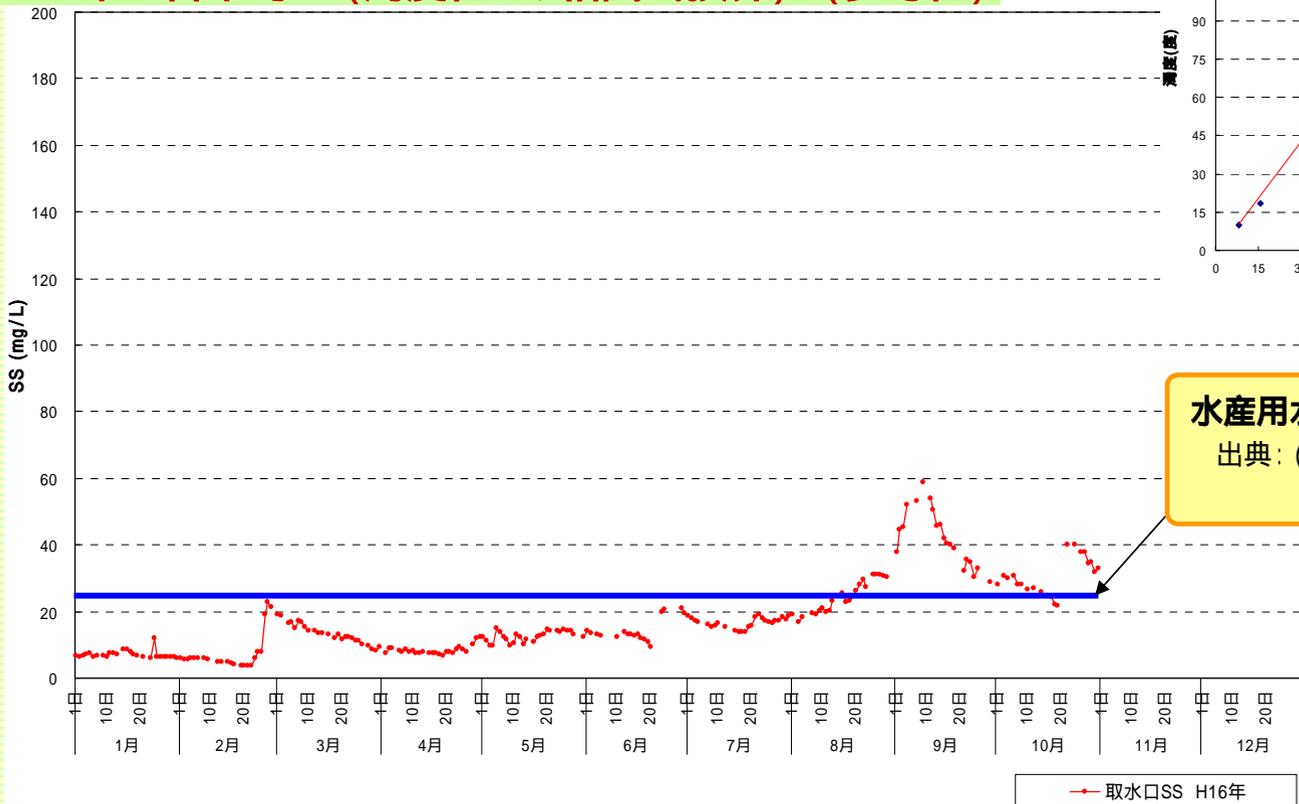
300mg/Lまでは正常な受精が行われます。また、300mg/Lまでの濁水は付着性にも著しい影響は及ぼさないようです。

出典：環境が河川生物および漁業に及ぼす影響を判断するための「判定基準」と「事例」(平成6年3月 (社)日本水産資源保護協会)

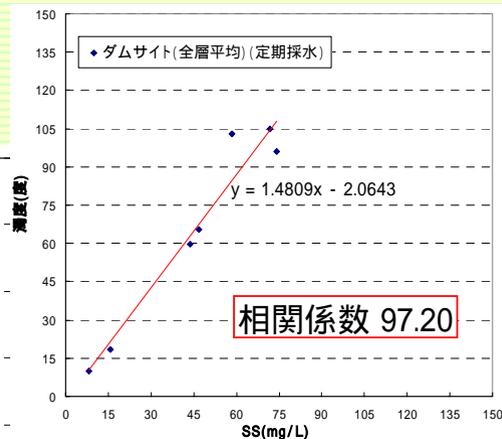
# 手取川ダム取水口地点の浮遊懸濁物質 (SS)

- 風嵐地点のSSに比べ、手取川ダム取水口のSSの値は大きく低減されています。

## H16年の日平均SS (濁度値より相関式換算) (参考値)



## 濁度とSSの相関グラフ



水産用水基準 **25mg/L以下**

出典：(社)日本水産資源保護協会  
(平成7年12月)